

体験から経験へ

今日(5月27日)から3週間の教育実習が始まりました。3名の教育実習の先生方が来られます。3名の方々は田辺中学校の卒業生であり、みなさんの先輩でもあります。ぜひ、教育実習の先生方といろんなことを話してみてください。みなさんにとっても実りの多い3週間になることを願っています。

5月は、2年生の校外学習、1年生の一泊移住、3年生の修学旅行と学校を離れての行事が続きました。どの学年も、公共の場所でのルールやマナーをしっかりと守り、クラスや班で協力して活動し、すばらしい成果を残しました。とても有意義な時間を過ごしたことと思います。みなさんがんばりをとても頼もしく、うれしく思いました。

これらの行事では、本物に触れる機会もあり、さまざまな体験活動がありました。出発式から帰校式までのすべてが、体験的な学びになっていたと思います。ふだん学校ではできない、このような体験活動は、多くの感動や気づきを与えてくれます。

今日は、「体験を経験にしていこう」というお話をします。体験とよく似た言葉に「経験」があります。体験は、体全部を使って経験することを意味します。一方、経験という言葉は、体験よりも意味が広く、見たり、聞いたりするなどの行動面だけでなく、そこから得た学びや知識のことまでも表します。

体験したことを、「楽しかった!」「すばらしかった!」という思い出だけにとどめていては、時間の経過とともに記憶が薄れてしまいがちになるでしょう。体験をさらに経験として、自分自身の学びや知識として身に付けていくことで、生きていく上での宝物になっていくことでしょう。

体験を経験として自分自身の中に取り込み、生かしていくためにはどうすればいいでしょうか。その一つの方法は「振り返ること」です。体験を通して感じたことや気づいたこと、考えたことを、書いたり、まとめたり、人に伝えたりするなどを通して振り返ることで、体験の価値がよりいっそう高まり、経験として、その人の内部に、長く、豊かに蓄えられていくことでしょう。

このことは、ふだんの勉強や部活動、読書でもいっしょです。「ていねいに振り返ること」を習慣にすることで、さまざまな体験的な活動が、知識や学び、技(わざ)となって、その人の成長に強く結びついていくはずです。これからも「振り返り」を大切にし、様々な体験に挑戦してほしいと願っています。

※全校集会での講話の内容に加筆・修正しています。